



岡山市議会議員(北区選出) 自由民主党岡山市議団所属

# 松田たかゆき 市政活動報告 Vol.12

令和3年 秋冬号



## ごあいさつ

皆様におかれましては、未曾有の災禍のなか大変なご苦労をされておられることと案じております。

岡山市では、7月中旬以降、新型コロナウイルス感染症・デルタ株による感染が急拡大し、まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の適用地域となり、市民の皆様には、何かとご不便をおかけしています。

議会においても、感染拡大防止、事業者支援、市民生活支援の3つの柱に沿って、時機に応じた対策を求めてまいりました。

過去最大の流行となった第5派は、現在収束しつつありますが、引き続き地域経済の回復と市民生活支援に粘り強く取り組んでまいります。

今回の市政報告【VOL12】では、6月及び8月定例市議会の質問と答弁、ここ半年間の活動の一部をお伝えします。

先を見通しづらい状況ではありますが、一日でも早く終息に向かいますこと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

岡山市議会議員 松田隆之

## Topic 2 高松城址公園整備

(1) 城址公園さくら樹勢調査 【R3年8/6~9/30】

さくら木の植え替え要望に基づく樹木調査

(2) 備中高松城の戦いCG・VR制作

【R3年6/30~R4年3/31】(「Virtual Reality」の略で、「仮想現実」と訳されます。)

(3) 資料館建て替え 【R3年度設計・R4年度整備】



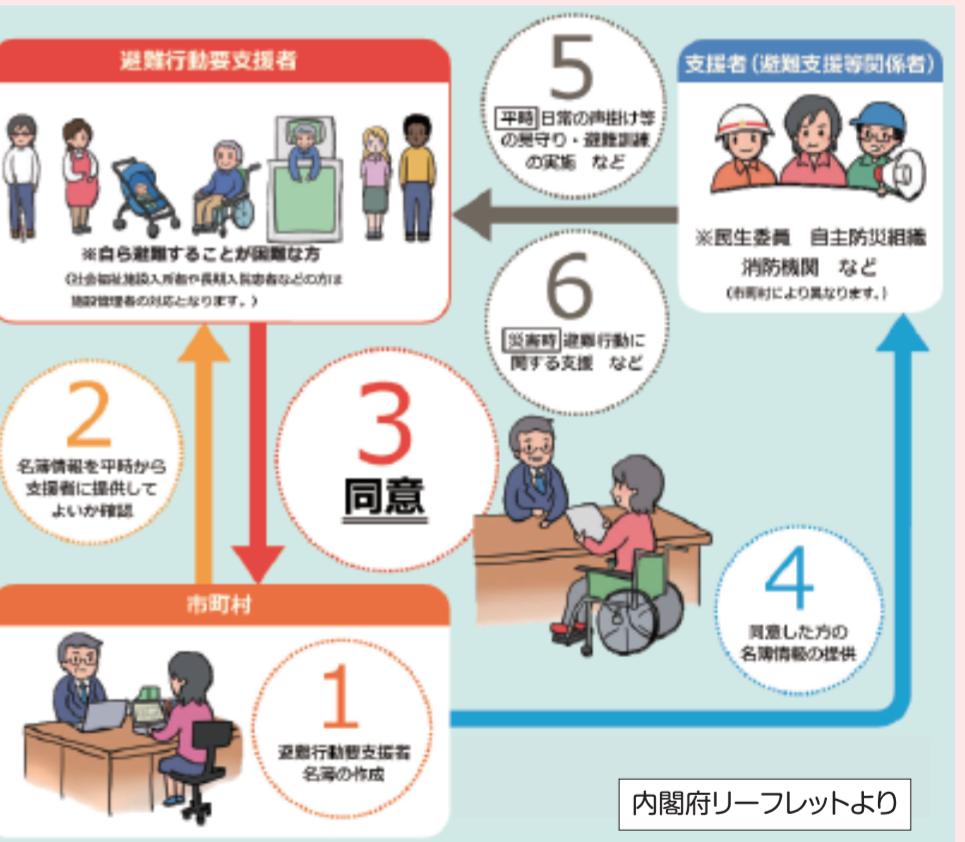
**Q CG・VR制作の概要と、資料館の建て替え方針は。**

**A** 備中高松城の戦いの歴史的価値を再認識し、国内外から多くの観光客を集め、満足度向上に繋がるよう取り組む。1582年(天正10年)の高松城やその周辺、布陣の様子をコンピューター・グラフィックスで制作し、水攻めや清水宗治公切腹などの場面の動画を作成する。また、磯田道史氏に解説いただき、合戦の始まりから終結までの動画も作成している。新たな資料館については、歴史公園内の施設として相応しいデザインとともに、水攻め等について分かりやすく展示し紹介することで、観光客や地域に親しまれる施設とする。

## Topic 1 個別避難計画

個別避難計画とは。

高齢者や障害者などのうち、自ら避難することが困難であり、避難の確保を図るために支援を要する避難行動要支援者一人ひとりに応じて作成する避難支援のための計画であり、自主防災組織や町内会などに策定を依頼している。



**Q** 自主防災組織の結成状況は。個別避難計画の課題及び避難支援者の責任は。

**A** 自主防災組織率は3月末時点で94.1% (連合町内会73団体／96団体・単町1075団体／1713団体)、個別避難計画は4月末時点で421件であり、現在、3地区でモデル事業に取組んでおり、課題や対応策などノウハウを蓄積する。また、避難支援者は法的な義務や責任を負うものではない。

## 松田たかゆき 事務所

TEL&FAX / 086-287-5697

〒701-1333 岡山市北区立田140番地8

HP : <http://www.takayuki-matsuda.com>  
mail : t-matsuda@takayuki-matsuda.com

■プロフィール  
・三井造船(株)玉野造船所  
・岡山市役所  
建築設備の設計施工管理  
廃棄物・地域温暖化対策事業  
ESD 国際会議誘致等  
・(公財)岡山市ふれあい公社  
・2015年 岡山市議会議員 初当選  
・2019年 岡山市議会議員 二期目当選  
■所属委員会  
・総務委員会  
・議会運営委員会  
・地域・まちなか未来調査特別委員会



市政または地域のことについてご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡下さい。

# 令和3年6月定例市議会 質問と答弁(抜粋)

## 1.みちづくり計画について

Q 米倉津島線(万成工区)の進捗状況と地元説明は。

A 国道180号の市への管理移管が出来ないとの考えが国から示され、国管理のまま事業を進めるよう方針転換した。また、JR桃太郎線LRT化計画を保留した上での国協議となっており遅れている。早期に地元説明したい。

Q 国道180号、総社一宮バイパスの北区福崎-今岡間の整備予定は。

A 国は、現在地質調査・道路設計を進めおり来年度、関係機関との設計協議や橋梁設計へ着手し、その後早期の用地買収着手を目指すと聞いている。

【現地測量・地質調査】  
R3年7月~12月 大崎・和井元・平山・馬渕・小山地区  
【自然・生活環境調査】  
R3年8月~11月 4-2工区6.7km(福崎~今岡)  
【水環境調査】  
R3年10月~12月 4-2工区6.7km(福崎~今岡)  
※図版は右下①図参照

Q 市道拡幅整備の幅員及び、土地買収価格の考え方。

A 基本的に有効幅員が5m以上になるよう整備を行っており、土地買収価格は整備後の有効幅員が7m以上の場合は鑑定評価額で、5m以上7m未満の場合は相続税評価額、5m未満の場合は寄附をお願いしている。

## 2.下水道整備について

Q 笹ヶ瀬右岸幹線及び、一宮・高松・吉備津地区整備予定は。

A 今年度は、笹ヶ瀬右岸幹線450m、一宮地区約9haの整備、高松・吉備津地区は水道管等の支障移転を予定。今後は、一宮・高松・吉備津地区等は、重点的に整備する予定。



Q 万成東町地内の整備予定は。

A 国道180号における整備箇所が残つておらず、関係者、関係機関と調整し、適切な時期に地域とのコミュニケーションをとって進めたい。

## 3.地域子育て支援拠点事業について

Q 利用状況の見込みについて、現状と将来見通しは。

A 令和3年度の利用見込みは約83,600人、今年度から全ての児童館で事業を開始しており受入れ可能な人数は約72,000人となった。しかし乳幼児人口が多く利用者が見込まれるにもかかわらず拠点がないエリアが残っている。令和6年度には利用希望者は73,700人と減少見込み。



## 4.農用地の活用について

Q 市が「岡山県南広域都市計画区域」を構成する意義は。

また、柔軟な土地利用ができない要因では。

A 市やまちの区域を越えた広域的な課題について、県と構成市町が連携と調整を図りながら効果的、効率的に取り組んでいくため、1つの都市計画区域とする必要がある。また、計画的な市街地形成のため、市街化調整区域における土地利用規制は必要と考える。



Q 土地改良事業の受益地から事前に外すこととはできるのか。

A 土地改良事業により実施し恩恵を受ける農地が受益地となるため、農地として利用しないことが確実な場合を除き、原則受益地から外することはできない。

Q 地域未来投資促進法に基づく農振除外、農地転用に係る配慮事項は。

A 線的整備の受益地については、土地改良事業完了後8年未経過であっても農振除外が可能となる。また、原則農地転用が不許可となる第1種農地等についても、不許可の例外として農地転用が可能。高速道路インターチェンジの周辺など、産業適地である農用地については、前向きに土地利用調整を図りたい。

Q 民間事業者の独自の取り組みを支援すべきだが。

A 人口減少等に伴う利用者数の減少など加味しながら、現在の事業実施の方法や場所の見直しを行いつつ拡充する予定。独自の取組への補助等の支援は、現在の制度の見直しを行った上で、拡充方策の一つとして検討すべきと考える。



## 1.通学路の安全確保について

Q 通学路のこれまでの点検と改善状況は。

A 年度初め及び緊急時の安全点検に加え、5年で全ての小中学校を一巡するよう合同点検を実施し、危険個所に対しては、道路関係課や管理者、警察等による対応や対策に加え、交通安全指導等により対応している。



Q PCR検査対象者の判断は。PCR検査体制と最大検査能力数と検査実績は。

A 検査対象者は、感染者との接触状況により保健所で判断している。検査体制は保健所が直接検体を採取するものと、市内約300の協力医療機関で行っており、8月23日からの1週間の実績は6,039件だが、最大検査能力数について明確な数は不明。

Q 病院交渉4回以上かつ現場滞在時間30分以上の救急搬送困難事案の状況、消防局として課題は。

A 救急搬送困難事案の状況は、8月下旬で8件/週となっている。増加した場合には、現場滞在時間が長引き、新たな救急要請への対応に支障がかかることが課題。



Q 用水路等転落防止対策について、対策済みと未実施数、完了見込みは。

A 平成28年度に把握した2,507ヶ所のうち、令和2年度末までに1,904ヶ所の対策を実施、残り603ヶ所を来年度までの2ヵ年で対策する予定。

## 2.新型コロナウイルス感染症について

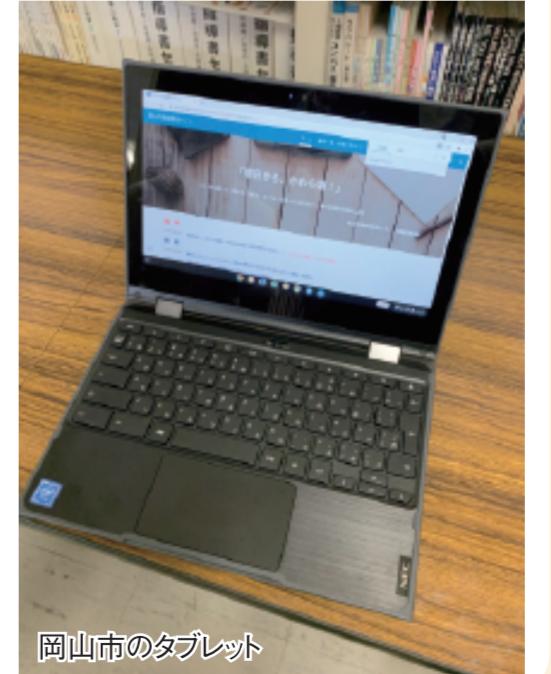
Q 療養方針と医療提供体制は。また、自宅療養者の体調管理と療養者の声は。

A 高齢者、基礎疾患のある方など、原則入院としていますが、症状や意向を踏まえ保健所で判断している。

県下で557床の病床と507室の宿泊療養施設が確保されており、現在稼働率は、40%~50%程度と改善されている。自宅療養者には、毎日1回電話連絡しており、血中酸素飽和度などを聞き取っている。不安の声に対しては、必要に応じ医療機関に結び付けている。

Q 県の役割りだが、岡山市は政令指定都市で県庁所在地。すぐに入院できる病床等の確保に支援、協力はしないのか。

A 療養状況は県全体を見て確保すべきもので市単独に準備することは難しい。県・病院・医師会等と協議したい。



## 3.防災対策について

Q 避難所開設時には、要配慮者の支援状況を把握すべき。デジタル技術を活用して確認できる仕組みづくりをしませんか。

A 避難対象者の避難状況の把握については、要配慮者を含め把握できていない。議員ご指摘も踏まえどのような対応が必要か研究したい。

Q 土砂災害警戒区域が1,487箇所、うち、土砂災害危険箇所が764箇所、指定後の地形や土地利用状況調査は。

A 県において、土砂災害特別警戒区域を含む区域指定が概ね昨年度終了し、今後定期的な調査方法等を検討する予定と聞いています。

Q ハザードマップを改訂予定だが、改訂概要と市民周知方法は。

A 洪水・土砂災害と津波ハザードマップの改訂を進めており、河川の浸水想定など最新の情報を基に浸水深や土砂災害の分類を細分化するなど掲載情報を充実させる。図郭を19分割とし、最大規模降雨の浸水想定などを掲載する。ホームページで公開とともに、地域センターなどの窓口で配布する。

Q 内水氾濫防止のため、「足守川から水を引く、高松・一宮・吉備地区の樋門関係者等の連絡網を作成し組織的な水位調整に取り組む。」とのこと。概要とスケジュールは。

A 事前水位調整は、氾濫防止と浸水被害の軽減を図るもので、河川からの取水停止とともに、用水路の一連の樋門操作が必要となる。市では、施設やその操作に携わる方が多いことから、連絡体制の強化が重要で、現在、操作員の方々と調整協議を行っており、今年度を目途に終えたい。



## 4.観光振興策について

Q 日本遺産に認定され3年、これまでの総括と今年度の「日本遺産活用推進事業」は。

A 認定後の様々な情報発信、造山古墳ビジャーセンターや看板設置などの受地整備を地元の方と一緒に実行してきた結果、地元の盛り上がりや旅行商品の製造など一定の成果があった。

今年度は、体験型おもてなしプログラムや、実際に旅をしたように感じる動画作成などを行う。千足古墳整備では、墳丘整備と復元した埴輪を並べる予定。